

合計特殊出生率 25年上昇も喜べぬ現状

厚生労働省が先月発表した2025年人口動態調査によると、三重県の合計特殊出生率は1.26と24年の1.24から上昇した。合計特殊出生率は1人の女性が生涯で産むと見込まれる子どもの数で、国や地域の出生力を表し人口予測の最も重要な指標となる。

ただ、前向きな上昇とは言い難い。上昇の主因は女性の出産可能人口の減少とみられる。合計特殊出生率は15～49歳の各年齢の女性人口を分母に、その年齢の母親から生まれた子の数を分子として年齢ごとの出生率を計算し、それを合計する。出生数が増えなくても分母の女性人口が減ると出生率は上がる。三重県の出生数は24年、25年と減少したが、25年の15～49歳の女性人口はその減少率を上回って減少した。特に、三重県の女性の県外流出は深刻だ。出産平均年齢（31.9歳）を含む30～34歳の転入超過率は24年が全国39位、25年は40位と、「転出超過率」が高い状況だ。

背景には賃金や働き方などの男女格差がある。三重県は男女格差の度合いを示す都道府県版ジェンダー・ギャップ指数の経済分野で25年は46位、26年は全国最下位だった。過去の常識にとらわれない多様な就労・勤務形態の導入など、女性が県内で理想の働き方ができると思える環境づくりが必要だ。

（地域共創事業部 主任研究員 谷ノ上千賀子）

県の合計特殊出生率や女性の転入超過率

	2024年	25年
合計特殊出生率	1.24	1.26
出生数	8896人	8792人
出生数(前年比)	-6.6%	-1.2%
15～49歳女性・推計人口	28万1000人	27万4000人
15～49歳女性・推計人口(前年比)	-3.1%	-2.5%
30～34歳女性・転入超過率	-0.55%	-0.56%
30～34歳女性・転入超過率(全国順位)	39位	40位

厚生労働省「人口動態統計」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」を基に作成

※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む（百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました）」

2026年7月16日